

研究概要報告書【音楽振興部門】

(1/3)

研究題目	「歌」「ピアノ」「馬頭琴」「ヤトガ(モンゴル琴)」のコラボレーションによる新しい音楽の創造。	報告書作成者	安居淳
研究従事者	アヨーシ・バトエルデネ 他3名		
研究目的	<p>「歌」「ピアノ」「馬頭琴」「ヤトガ(モンゴル琴)」というコラボレーションの特長を生かし、新しい音楽を創ること。</p> <p>「聴きたい音楽がない」という大人のために、少しモダンでかつ、「うま味」のある音楽を提供すること。</p> <p>モンゴル発祥の楽器の魅力を日本に伝え、音楽を通じて日本とモンゴルのますますの友好に尽力すること。</p>		

研究内容	<p>馬頭琴は、チェロの原型とも言われていますが、音には独特の擦り音や倍音が含まれており、チェロとは異なりぶっきらぼうでありながらも、実は繊細で味わい深い特徴を持った音色の楽器です。</p> <p>「馬頭琴」は1900年代半ば以降、優れた工房や職人があられ、それは「近代馬頭琴」と呼ばれ、品質が著しく向上しました。その結果、さまざまな楽器とのコラボレーションが可能になり、その曲を引き立てるうえでの、重要な「うま味」の役割を担うようになりました。</p> <p>馬頭琴のてっぺんには作家ごとに異なる馬の頭が鎮座しています。(これが日本で「馬頭琴」と呼ばれる所以です。)</p> <p>モンゴルには馬頭琴を教える大学がいくつかありまた、国内には「馬頭琴交響楽団」も存在します。</p> <p>中にはコントラバスサイズの馬頭琴もあり、それらを含む何十頭もの馬が、馬使いの号令と同時に、壇上からいっせいに雄叫びを上げる様は圧巻です。</p> <p>一方、ヤトガ(モンゴル琴)は元来、13弦の楽器でしたが、表現の変化に伴い、いつしか21弦のヤトガが生まれました。現在ではこの21弦タイプが、一般的なタイプとして広く用いられています。日本の琴とは異なり、指でつま弾いて音を出すため、音が柔らかなのが特徴です。</p> <p>以前は弦に絹糸が使われていましたが、今日ではスチール芯にナイロンを巻いたものが使われています。胴は硬木で作られ、重いのが特徴で、良いヤトガほど重量であると言われています。</p> <p>そして「馬頭琴」にも「ヤトガ」にも、美しくもはかなく悲しい楽器誕生にまつわる逸話が存在しています。</p> <p>この逸話を聞いた後に、あらためて楽器の音色を聴くと、何とも純粋な響きに心がしんみりとしてしまいます。</p> <p>この楽器には、周囲を取り巻くあらゆる背景を含め、東洋人にシンパシーを与えるパワーがあることを感じています。</p> <p>そこで今回の演奏会では、「馬頭琴」に、「歌」による言葉のパワーと、「ピアノ」「ヤトガ」によるメロディーを支えるハーモニーのパワーを加え、私たちにしかできない音楽表現を行いました。</p>
------	---

研究概要報告書【音楽振興部門】

(3/3)

<p>研究のポイント</p>	<p>民謡や、民謡由来の近代歌曲などから、アジア人のルーツとなるメロディを探り、独自のコラボレーションで、新しい音楽を探る。</p> <p>オリジナル曲においては、独自の世界観を表現する。</p>
<p>研究結果</p>	<p>コロナが蔓延する中、多くのお客様にお集まりいただき、現時点で私たちが求める音楽表現が達成できたと思う</p>
<p>今後の課題</p>	<p>まったく新しい組み合わせでの音楽表現であるため、今後ますます独自のオリジナル楽曲の創作が必要不可欠である。</p> <p>またネット配信を利用したの普及、活動にいっそう注力をしていきたい。</p>